

令和3年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿	
自分のよさを切り拓く子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで勉強しよう ・思いやりのある人になろう ・丈夫な心と体をつくろう ・ふるさと(浦里)に学ぼう 	
	今年度の重点目標	
	1	自分の考えを持ち、自分から伝えられる
	2	人にやさしくできる
	3	自分から主体的に動ける
4	自分から地域と関わられる	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
<p>学校目標「自分のよさを切り拓く子ども」を目指し、4つの「めざす子どもの姿」のもと取り組んできた。①「進んで勉強しよう」については、国語科・算数科・特別支援教育単元訪問を機会に課題に対して主体的に取り組む力を育ててきた。今後は「学習問題・学習課題・振り返りを位置づけた授業の日常化」を目指すとともに、自主的な学びの場としての家庭学習のあり方についても検討していきたい。②「思いやりのある人になろう」については、異学年や地域の方々と関わる中で、相手を大切にできる気持ちが醸成されてきている。今後は縦割活動や地域の方々と関わりと同時に、連学年とのつながりを大切に活動位置づけ、思いやりの心をさらに醸成していきたい。③「丈夫な心と体をつくろう」については、朝マラソンや体みぎの時間を通して主体的に体を鍛えるとともに、授業を通して自分に自信がもてるよう取り組んでいきたい。④「ふるさと(浦里)に学ぼう」については、新型コロナウイルスの影響で制限のある中、ふるさと学習を通して地域と関わってきたことで多くの学びがあった。今後も地域との関わりを大切にするとともに、自らの問いを地域の方々のお力を借りながら解決していきよう働きかけていきたい。</p>					
2学期の学校評価では1学期に続き、約9割の保護者から「関わり合う」という意図が育っているや「関わり合う場面が見られた」と評価いただいでおり、その姿が育ってきている。		○			学習問題、学習課題・振り返りを位置づけ、児童にとって必要感のある学習になるような授業づくりに引き続き取り組んでいく。
異学年や地域の方々との関わる中で、相手を思いやり大切にできる気持ちが育ってきている。	○				相手の思いを感じ自分の行動に生かせるよう、縦割活動や連学年授業、地域の方々との関わる活動を引き続き位置づけていく。
児童会活動や清掃活動等で主体的な姿も見られるが、授業を通した取り組みが不十分な面もあり、主体性に欠ける主体性に欠ける面も見られる。			○		児童会活動や清掃活動等で働きかけをしていくとともに、主体的な姿を目指した授業づくりに取り組んでいく。
地域ボランティアの方々や生活科や総合を学習を中心に寄りながらも学習を進められたが、主体的とまではいかなかった。			○		生活科や総合学習を中心に、自分の問いを地域の方々のお力を借りながら解決していく学習を目指していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	総合的な学習・生活科	ふるさと学習において、問題解決学習を基本とした体験学習を確実に一単元以上で実践できたか
		学習支援ボランティアの導入	全てのクラスで複数の教科にわたり学習支援ボランティアを導入できたか
		運動の日常化の推進	朝マラソンを日常化し、朝マラソンをしている児童の数が昨年度よりも増加するような働きかけをすることができたか
	学習指導	学習問題・課題の共有	子どもたちが自ら追究したいと思える学習問題が設定・提示されたか
		コミュニケーション能力の育成	ICT授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか
		きめ細やかな個別指導の充実	はげみタイム・個別学習の時間は複数体制で指導し、基礎基本の獲得に伸びが見られたか
		意義を感じ、やりがいの持てる家庭学習	生活学習ノート「紡ぐ」等を活用し、家庭・保護者と連携して、定期的に評価することで、家庭学習のやりがいを実感することができたか
	生徒指導	基本的な生活習慣	「早寝、早起き、朝ごはん」「明るいあいさつ」家庭で決めたメディアのルールを意識して生活できる児童が増えたか
		良さを見る目と想像力の育成	授業で、友との関わりの中で自分がわかったり、変わったりしたことを振り返る時間をとることができたか
	学校運営	地域との連携	コミュニティー・スクール
PTA			コミュニティー・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか
研修		教科研究	研究テーマをもとに個人テーマを設定し、研修を積んだことが、子ども中心の授業実践に生かされたか
		各種研修	地域のことを知るための研修や教師として様々な子どもに対応できる研修が行えたか

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
体験学習を一単元以上実践できたが、問題解決的な学習に至らないこともあった。		○			ふるさと学習発表会が問題解決的な学習の発表の場になるよう、年度当初から意識を共有していく。
新型コロナウイルス感染警戒レベルに合わせて可能な限り学習支援ボランティアに支援いただいた。	○				感染予防レベルに鑑みながら、可能な限り支援を要請していく。
マラソン大会に向けて毎日頑張る姿も見られたが、積極的な働きかけが不十分な面もあった。		○			マラソン大会を自らの取り組みの成果を自覚する場として位置づけ、日頃から働きかけをしていく。
国語科や算数科の授業づくりをもとに取り組んできたが、日常に生かしていくという面で課題が残っている。			○		学習問題、学習課題、振り返りを位置づけた授業展開を今一度共有し、取り組んでいく。
ICT支援員の支援によるクロームブックを活用した授業の充実が図れた。連学年授業は、コロナ禍で制限のある中ではあったが道徳や体育を中心に互いに学び合うことができた。	○				クロームブックを学び合う手段として引き続き活用するとともに、子どもたち同士で学び合う場面も位置づけていく。
基礎基本の習得のためにはげみタイム・個別学習でドリル学習等に取り組んでいるが学年によって取り組みに差が出てしまった。また、感染レベルが高い日が多かったため、複数の指導はなかなかできていない。			○		はげみタイムや個別学習の取り組みを確実に位置づけるとともに、学習支援ボランティアの活用も進めていく。
2学期の学校評価では約8割の保護者から基礎的・自主的な学習習慣が身につけていると評価いただいたが、「紡ぐ」を活用した自主学習は十分取り組めなかった。			○		家庭学習を自主学習の場としても位置づけ、やりがいを実感できるものになるよう取り組んでいく。また、手引きの作成も行っていく。
2学期の学校評価では約9割の保護者から自ら挨拶している」と評価いただいた。メディアの関わりも1学期の約5割から約8割と改善されてきている。		○			PTA子育て委員会と協働し引き続き働きかけをしたり、学校保健委員会でも話題にしている。
2学期の学校評価では約9割の保護者から振り返る活動をしていると評価いただいたが、自己の変容を自覚する内容までには至っていない。		○			授業づくりを通して「ふりかえり」の場を位置づけた授業づくりについて今一度共有する。
参観日や行事、学校運営協議会でご意見をお聞きし、教育活動の改善に生かすことができた。	○				定例の運営協議会はもとより、必要に応じてご意見を伺っていく。
PTA子育て委員会と連携して実践目標を啓発したり、ノーマディアデーや学校保健委員会、PTA講演会において、メディアとのよりよい関わり方を学ぶ機会を設けたりして、目標達成に向けて取り組むことができた。	○				学級PTAで話題にするとともに、PTA子育て委員会とも協働し引き続き働きかけをしたり、学校保健委員会でも話題にした。りする。
個人研究課題を設定し、国語科、算数科、特別支援教育を中心に研究を重ねることができた。また、元信濃教育会教育研究所の植村繁芳先生によるオンライン研修を行い、子ども理解を深めることができた。			○		各教科指導主事学校訪問や元信濃教育会教育研究所の植村繁芳先生によるオンライン研修を通して学んだことを共有し授業実践に生かしてい。
クロームブック活用研修や非違行為防止研修等を通して、子どもの指導に活かせる研修を重ねてきた。地域研修については、コロナ禍もあり、実施できなかった。			○		引き続き、クロームブック研修や非違行為防止研修を行うとともに、地域研修についても実現に向け、地域ボランティアに相談する。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった